

潮音寺だより

第 276 号
平成 18 年 10 月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1-10-11

忙^{もう}忙^{もう}たる六^{ろくごう}道
定^{じょうしゆ}趣^{しゆ}なし

出典『往生礼讃偈』善導大師

セカセカ
ギスギス
ガツガツ

そんなことでは
体も魂も
落ち着く処が
定まりません

先ずは
針路を
迷わず西に

弥陀が
氣長に
待つておられる

あわてない
あわてない

盆画：小島とよ子

バスタッタの昇天

古代インド、マツラ国にバスタッタという、美人として名高い娼婦（おどろ）がいました。召使に、ある日お香を買ってくるように命じました。ところが、あまりに多くの香を持ち帰ってきたので、慥（しん）しんで讒（ざん）ねると、「いいえ、盗んできたのではありません。そのお香屋さんにはウバキクタという方で、大愛慈悲深く、あんなによいお香をたくさんくださったのです。それに男前がまことによくて、あのようなお方と何すれば……、死んでも恨みはございません……」と答（こた）えました。

召使の言うことを感心して聞いていたバスタッタは、自分も会ってみたくなり、すぐに召使を遣（わ）わせました。ところが、その返事は

「まだ時が来ない」ということでした。

バスタッタは、「妾（めかけ）と会うにはきつと高いお金がいると思っっているのだわ。お金は要（い）らないからと、もう一度頼（たの）んできておくれ」と、再度召使を遣（わ）わせました。しかし、「まだ時が来ない」と、同じ返事が返ってきただけでした。

たまたまその頃、ある大商人が、城中第一の美人だという噂（うわさ）を聞いて、バスタッタのところ（ところ）に、珍しい宝や豪華な装飾品を持って、客としてやってきました。その宝石類を見るや、バスタッタは無性に欲（ほ）しくなりました。しかし、先客として来ている長者の一人息子が、先ほどからせつついてきていて、邪魔（げま）つ氣（き）に思ったバスタッタは、こともある

うに、殺して裏庭に埋め、そ知らぬ顔で、大商人と男女のよしみの極みを尽くしておりました。

一方、長者の息子の家では、息子が何日も帰らないので、心配してバスタッタのところへ、捜しにやってきました。当のバスタッタは「知らぬ、存（ぞん）ぜぬ」の一点張りでありましたが、ここに来ていたことは分かっていたので、隈なく捜した結果、ついに裏庭から、変わり果てた息子を発見しました。長者の落胆（らくたん）と怒りは、一通りではありませんでした。

時を移さずして、長者は国王にそのことを申し上げ、バスタッタへの敵罰を願（ねが）い出しました。国王は、すぐさま捕らえて、手や脚や耳や鼻等を切り落とし、塚（つか）に晒（さら）し者（もの）としました。

「このことを聞いたウバキクタは、「私が行くべき時が来た」と、ひとりの侍者を連れて、バスタットの晒し場へと起きました。」

晒し場では、鳥たちがついばみに来るのを追い払っていた召使が、ウバキクタがやって来るのを見て、主人であるバスタットに「ウバキクタ様がお見えになりました。でも……、今時分ようやく情念を起されたのかしら……」といいました。

「これを聞いて、「この姿、何で情念など起こされましよう。妾の手や脚や耳や鼻を集めて、その上に見えないように、着物でも掛けておくれ」と、苦しき中でも、少しでも体裁を作ろうと、召使に言いました。そして、彼女は、「ようこそいらしてくださいました。」

しかし、今はご覧のとおり見苦しい姿、以前お迎えを差し上げたときは来てくたさらくなくて、今……、なぜ、何のご用でお越しくださったのですか」と、恨みまじりに訴えました。

ウバキクタは、穏やかに、威厳のある言葉で、「私は、欲事のために来たのではない。お前は、これまで色仕掛けでもって、世間のものを騙してきた。しかし、色の無常なこと、はかないことは、水の泡のようなものである。色は、薄い皮そのものである。薄い皮をはげば、血と肉と骨との不浄醜穢さはわかるものではないか。外をいかに美しく着飾ろうが、内は不浄悪臭の箱ではないか。智者は明らかに悟るから迷うことはないが、愚者は、明らかに観ることができ

ないから、深く迷うのである。もし、仏の善法を聞き、五欲の汚れた現世を厭い離れることができれば、安楽の心をいただけるのである」と、慈悲の心で諭し、さらに広く、仏法を説き聞かせました。

さすがのバスタットも、「あなたは、今私のために、仏の道を示してくださいました。わたしは今から至心に仏法僧の三宝に帰依いたします」と、歓喜の中に、ウバキクタにお礼を述べたので、ウバキクタは、なおもいたわって立ち去りました。

間もなく、バスタットは、眠るがごとく安らかに息を引き取りました。その後、三十三天からなる忉利天という、楽しい天上界に生まれることが出来たということがあります。

(阿育王伝)

◎ 忉利天

仏教世界観における天の一つ。忉利はサンスクリット語トラーヤストウリンシャの音訳語の略称。

原語は「33」、すなわち「33種の天（または天神）からなる世界」を意味し、「三十三天」とも訳される。須弥山の頂上にある天で、東西南北にそれぞれ八つの城、中央に善見城があり、合計33の城がある。善見城中の殊勝殿には三十三天の首領である帝釈天がいる。

この天は楼閣、死樹、香樹などに満ち、一種の楽園であり、欲界に属し、性の交わりを享受するという。釈迦の母は死後ここに生まれ変わり、釈迦が彼女への説法のためにここを訪れたとい

う。

『日本大百科全書』

雑記

▼ 工事状況報告



来年の秋の落慶法要に向けて、本堂及び書院の壁の塗り替え・水屋とトイレの改修もこの際、追加工事とする旨を、先月までお伝えしましたが、残念ながら、諸般の事情により、しばらくの延期ということになりました。工事開始の折は、改めてご報告させていただきます。よろしくお願ひいたします。

位牌堂の十三仏の内、お不動さんが、まだご不在ですが、九月末には補修が終わり、お戻りいただけるはずですよ。

また、庭の植栽が残っていますが、もう少し涼しくなったら

していただけるのごです。

▼ Google Earth

インターネットで、先ごろ日本語版の「Google Earth」(グローバルアース)が発表されました。立ち上げますと、先ず地球が回って日本の位置で止まります。そして、たとえば、「熱田神宮」と検索しますと、瞬時に熱田神宮周辺の上空写真が映し出されます。さらに、「エッフェル塔」で検索すると、地球がぐるっと回ってフランスまで連れて行ってくれます。車一台一台が識別できるほどの精度で、しかも無料とあって、驚嘆に値します。宇宙旅行気分です、世界観光地巡りができます。

▼ 赤とんぼタモ滞り抜け

招き飛ぶ 沐魚